

令和7年度第3回山梨県公立大学法人評価委員会 議事概要

- 1 日 時 令和8年2月12日（木）午前10時00分～午後0時00分
- 2 場 所 山梨県立大学飯田キャンパス A館2階大会議室
- 3 出席者 委 員 小川忍 黒澤尋 越石寛 樋川初実 村田俊也
法 人 早川理事長 三井副理事長 ほか
事務局 三科まなび支援課課長 ほか

<早川理事長あいさつ>

本日はお忙しい中ご出席いただき、感謝申し上げます。ご承知のように、現在、大学を含む高等教育の世界は大きく変化しようとしており、極めて重要な時期にさしかかっている。少子化、そしてAI等のIoT技術の急激な進展にどのように対応していくのか、非常に重要な時期にあると言っても過言ではないと思う。そういった中で外から大学を見ていただき、様々な意見をいただくことが重要になる。

委員の皆様にはご多忙のところとは思いますが、ぜひ外から大学を見た忌憚のないご意見等をいただければ幸いである。本日はどうぞよろしくお願いを申し上げます。

<委員長及び委員長代理について>

委員長に村田委員、委員長代理に黒澤委員が選出され、了承された。

<議題>

- （１）令和7年度第2回山梨県公立大学法人評価委員会議事概要（案）について
審議の結果、案のとおり了承された。

- （２）公立大学法人山梨県立大学役員報酬規程の一部改定について

○事務局

資料2により説明。

○法人

資料2により説明。

○委員長

法律に基づき県で改定があり、それに合わせて改定するということか。昨今の物価上昇を踏まえると、私は妥当な額であると思う。

- （３）公立大学法人山梨県立大学の業務実績に関する評価基本方針の改正について

○事務局

資料 3、4 により説明。

○委員

年度評価を廃止し、中間評価と最終評価の 2 回を行うという理解でよいか。

○事務局

中間評価にあたる事前評価と、6 年間の実績評価の計 2 回を行う。

○委員長

法律上は 2 回のみでよいということか。ただ、それでは支障が出るため、その改善案を後ほど提示するという理解でよいか。

基本的に法律の改正に合わせて変えていくことは自然だろうと思うが、資料 4 で説明のあった内容は、その内容を反映したもので、若干字句の調整等をしたということによろしいか。

○事務局

間違いない。

●（４）公立大学法人山梨県立大学の各事業年度の業務実績評価実施要領の廃止について

○事務局

資料 5 により説明。

●（５）公立大学法人山梨県立大学の中期目標期間の業務実績に係る事前評価実施要領の改正について

○事務局

資料 6、6－1、6－2、6－3、6－4 により説明。

○委員長

今回の要領改正で、小項目の数が 55 から 40 に減少している。中期計画自体は変わっていないと思うが、法人の自己評価の小項目数が減った理由を伺いたい。

○事務局

資料 6－1 の新旧対照表の右側が前中期計画、左側が現中期計画となっている。中期計画の大きな固まり自体はほぼ変わっていないが、その表現や内容に関しては、前中期計画と現中期計画で変わっている。中期計画を作成する際に、計画の重点化や簡素化を図るために、整理をされて項目数が減少した。第一期中期計画は 123 小項目、第二期は 55 小項目、第三期が 42 小項目となっている。

○委員長

現中期計画が作成された際に小項目が42に整理されており、今回55から42に改めるのは、現状の実態を反映したものと理解してよいか。

○事務局

間違いない。

○委員長

(2) 項目別評価における評価委員会が行う検証・評価項目数を改めることについては、法改正に伴う趣旨や法人側の負担軽減等も踏まえたものと考えてよろしいか。

○事務局

間違いない。

○委員

資料6-3は令和8年度の事前評価時にレポートとして提出される様式と承知している。例えば、3ページの「評価指標の達成状況」の欄が、進捗状況の確認で新しく変わる部分だと思うが、ここに記載するのは太字の指標なのか、細字の指標なのか。

○事務局

中期計画のうち、太字の指標を記載することになっている。例えば、「ア 学士課程」の「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度（リテラシーレベル）への申請・採択及び開講の受講率」が太字の指標である。具体的にはわからないが、令和7年度に申請・採択されているので、R7の目標に「申請・採択」、実績に「採択」と記載され、それ以降開講されているのであれば、目標に「受講率」が入ってくると思われる。

○委員

それを我々が純粋に見て、指標を達成しているかを評価するという理解でよいか。

○事務局

そのような形でよろしいかと思う。

○委員長

関連して、例えば、No. 1には「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度（リテラシーレベル）への申請・採択及び開講の受講率」の太字の指標が記載されるが、その他の2つの細字については、こういう形で指標とするかどうかは任意と考えてよろしいか。

○事務局

太字の指標に関しては達成状況の記載が必須だが、細字に関しても指標として掲載をされているため、この表形式ではなく、法人が必ず記載する「自己評価及びその理由」「これまで

の主な取り組み実績」で説明することで、法人と調整していきたい。

○委員

資料6－1、5ページの新旧対照表について、例えば、「(3) 学生の支援に関する目標」について、前中期目標は、学修支援、生活支援、就職支援の中項目に対して小項目数が2、2、1だったが、現中期目標は就職支援等の小項目3つを評価すればよいか。

○事務局

評価委員会としては就職支援等の指標で報告を受け、これを中心に評価をしていただくことになる。

○委員

今までは、学修支援や生活支援の中項目があったがそれは評価せずに、就職支援等の3小項目で評価をするということで、従来は中項目3 2項目で評価していたが、今回は小項目3 0項目の評価という理解でよいか。

○事務局

その理解で問題ない。

細字に関しては先ほど申し上げたとおり、法人に記載はしていただくが、教育活動や研究活動など当然、やるべきものであるという整理を前年度までの評価委員会ではいただいたため、メインとしては主に太字の指標を評価していただく。

ただ細字に関しても、当然やるべきものがやっていないということであれば、評価としては下がるのは当然であるので、総合的に評価していただくことになると思う。

来年度の評価委員会の際にご説明をさせていただくが、指標にない取り組みに関しても、これまでの取り組み状況等で記載するため、総合的に取り組みの進捗状況と最終的な見込みを評価していただくことにはなろうかと思う。

○委員長

資料6－1について、主な変更は評価項目数の変更や法改正に関わる部分であるということだが、3ページの下の方、大項目評価については、目安となる基準を設けることで現行に比べて明確化したと捉えているが、間違いないか。

○事務局

間違いない。

○委員長

3ページの左下の提案の部分は、例えば、「評価委員会が特に認める場合」や「すべてⅢ～Ⅳ」、「Ⅲ～Ⅳの割合が9割以上」など、ある程度明確な基準を今回設けたということか。

○事務局

その通り。

○委員長

一度やってみないと肌感覚がわからない部分もあると思うが、これから少しずつ修正していくということか。

○事務局

法人とも相談しつつ、委員の皆様が評価しやすいような形で報告書の作成をお願いしていきたい。

○委員

評価委員会は、令和7年度は3回開催したが、評価項目数の減少や年度評価の廃止により、令和8年度は事前評価1回の開催となるのか。

○事務局

今までのスケジュール感で申し上げますと、法人からの実績報告書提出が事業年度終了後3ヶ月以内であるため、7月上旬に委員会を開催し、実績報告書に対して法人から説明と質疑応答を行う。その後、委員の皆様に評価していただき、事務局で取りまとめた上で、8月中旬から下旬にもう一度委員会を開催し、評価を確定させるため、最低2回の開催となる。

令和9年度には中期計画・中期目標の策定があり、その素案の策定進捗状況によっては一度この時期にあるかもしれない。断言はできないが、概ね2回から3回と認識していただければ結構だと思う。

●（6）各事業年度評価廃止後の対応について

○事務局

資料7により説明。

○委員

資料3の評価委員会スケジュールと照らすと、来年度評価委員会が評価するのは、令和7年度の大学の評価という理解でよいか。

○事務局

令和7年度のその他の欄にある実績確認手法検討が、資料7に当たる。

来年度の事前評価では、令和7年度の実績も含めて最終的な見込みを法人の方で作成し、確認・評価を行うため、令和7年度単体での確認・評価は行わない。

令和9年度には法定の評価がないため、何かしら法人から前年度の実績に関して報告を受ける必要があるのではないかとということで、資料7の内容を令和8年度分の実績確認として行う。

○委員長

この形態でやるのは、令和9年度に令和8年度の内容を評価するということで間違いないか。

○事務局

間違いない。

○委員長

提案の趣旨は理解した。もし私の方から1つ要望させていただくとすれば、様式の内容について、簡素化はよくわかるが、一方で評価的なこともやはりやらなければいけない。

ただ見て、「そうですか」ではいけないと思うので、その場合に、どんな資料があれば評価できるかを考えてみると、文章だけだとこれが正しいかどうかよくわからない。最近は、数字やエビデンスが非常に求められるので、それがわかるようなものを少しでも入れていただくと私としてはありがたいと思う。

もう1つは、事前評価や実績評価とある程度様式は統一していただけると、私たちは見やすく、評価しやすいという感じがする。

○委員

これは評価ではなく、活動報告書で状況確認をするものでよいか。

○委員長

実際の議論の内容はどうか。「わかりました」というだけで終わりなのか。

○事務局

他県の状況を確認すると、今までの実績報告書を簡素化した様式を使用している県が多数であり、県立大学にとっても既存様式をもとにするほうが良いと考えている。

前委員の皆様は質疑応答も年度評価でやっていただいているので、雰囲気はわかると思う。「わかりました」というよりは「こうしていったほしい」という意見もいただきたいと考えているが、法人とも今後の対応について調整していきたい。

○委員長

委員会で求められるのは何かというのを確認した上で、必要に応じて様式を調整されたい。現時点では一応了解ということでよろしいか。

○委員

異議なし。

●（7）その他

○委員長

その他、出席者の皆様から何かあるか。なければ、議題については以上とする。

以上